

J A グループ宮城 災害復興ニュース (総合版)

第 5 5 号

【平成 25 年 8 月 5 日 (月) 発行】
発行：J A グループ宮城災害復興本部
編集：J A 宮城中央会
〒980-0011 仙台市青葉区
上杉 1 丁目 2 番 16 号 JA ビル宮城 6F
電話番号：022-264-8207
FAX 番号：022-216-4466
E-mail：jataisaku@gmail.com

《目次》

1. 「がんばる宮城の農業フェア」で復興をアピール
2. 復興支援イベント「TBC夏まつり」で環境保全米PR
3. 被災地の子どもたちを応援。石川佳純選手が石巻で卓球教室
4. 原発事故損害賠償対策宮城県協議会が東京電力に第23次請求
5. 宮城県JA農機担当者連絡協議会と県系統農機メーカー連絡協議会が義援金

1. 「がんばる宮城の農業フェア」で復興をアピール

J A グループ宮城「県産県消」推進協議会は 7 月 6・7 日、仙台市の勾当台公園市民広場で開きました。とれたての新鮮野菜や農畜産物、農産加工品などを販売し、復興にかける生産者の思いをアピールしました。

県内 13 J A の他、東日本大震災直後から本県を支援している J A 全農が今年もブースを設け、特産のサクランボやメロンな



にぎわった「TPPとよい食プロジェクト」コーナー

などを販売。J A 宮城中央会の「TPPとよい食プロジェクト」コーナーでは、TPPと野菜などの種当てクイズを実施し、TPPで懸念される問題に答えてもらい、その危険性をアピールしました。7日には、中央会とJ A 全農みやぎの職員6人が、ステージでTPPを考えてもらう寸劇も披露しました。

2. 復興支援イベント「TBC夏まつり」で環境保全米PR

J A 宮城中央会は 7 月 20・21 日、仙台市の勾当台公園で開かれた復興支援イベント「TBC夏まつり」に出展、サケと三陸産ののりを使ったおにぎりのチャリティー販売などを行い、「みやぎの環境保全米」をPRしました。2013ライシーレディの赤間有華さんも参加し、おにぎりは2個100円と格安で販売しました。売上金は震災義援金として被災地に送られます。

3. 被災地の子どもたちを応援。石川佳純選手が石巻で卓球教室

昨年のロンドン五輪卓球女子団体で、日本初の銀メダルに輝いたＪＡ全農所属の石川佳純選手が７月１２日、東日本大震災で被災した地域の子どもたちを元気づけようと、石巻市総合体育館で卓球教室を開きました。地元の小・中学生約１６０人が参加。石川選手は、フォアハンドやバックハンドでの打ち方などを丁寧に指導。模範演技ではサーブ、レシーブ、スマッシュなど“世界の技”を披露しました。教室は石巻卓球協会が主催し、全農が特別協賛しました。



4. 原発事故損害賠償対策宮城県協議会が東京電力に第２３次請求

ＪＡグループ東京電力原発事故農畜産物損害賠償対策宮城県協議会は７月２２日、東電への第２３次請求を６億８，４００万円とすることを決め、３１日に請求しました。６月２８日現在、同協議会の請求総額は２７０億４，７００万円。受領総額は１７４億９，８００万円で請求対比６４．７％となっています。

同協議会では肉牛等の損害賠償請求方式について、「価格下落率方式」への移行を前提に東電と交渉しています。移行実施時期などについて、さらに交渉を重ね、次回の総会までに考え方を提示する予定です。

5. 宮城県ＪＡ農機担当者連絡協議会と県系統農機メーカー連絡協議会が義援金

宮城県ＪＡ農機担当者連絡協議会と宮城県系統農機メーカー連絡協議会は７月１７日、チャリティーオークションの売上金をＪＡグループ宮城災害復興本部に贈りました。チャリティーオークションは、６月に仙台市内で行われた「ＪＡグループ宮城担い手営農復興支援ビッグフェア２０１３ in 宮城」で実施したものです。ＪＡや農機メーカーなどから農機具や肥料、野菜、牛肉などが多数出品されました。



売上金は県ＪＡ農機担当者連絡協議会の戸田進会長（写真㊦）と県系統農機メーカー連絡協議会の松田浩巳会長（写真㊧）が、ＪＡ宮城中央会を訪れ、菅原章夫会長に手渡しました。

なお同日、ＪＡグループ宮城「県産県消」推進協議会も、６・７日に行った「がんばる宮城の農業フェア」の模擬せりの売上金や募金などを、義援金としてＪＡグループ宮城災害復興本部に送りました。